

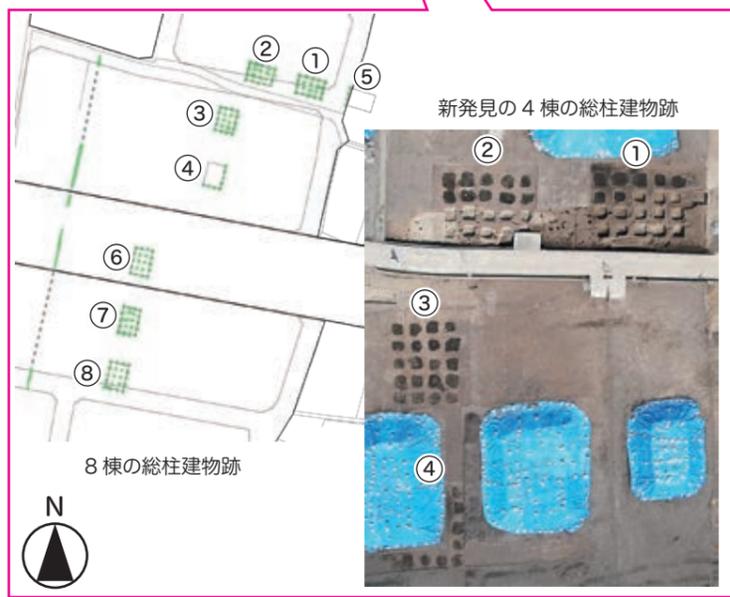
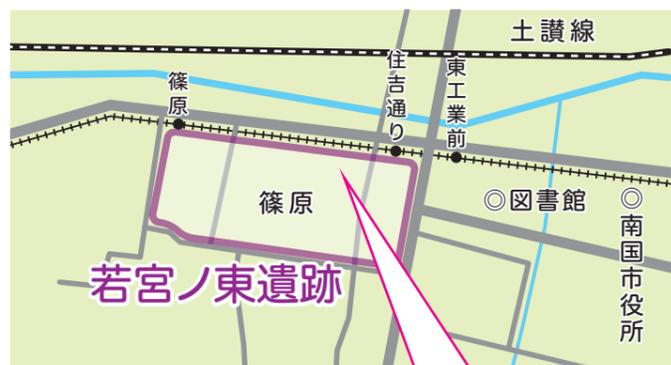


新発見!

埋蔵文化財 発掘調査

わかみやのひがしいせき 大規模集落跡 若宮ノ東遺跡

平成29年から篠原土地区画整理事業に伴い実施した発掘調査の成果をご紹介します。なかでも、古代の8棟の総柱建物跡群は、「役所の高床式倉庫群(郡衙の正倉)」であることが判明し、県内では初めての発見となりました。



若宮ノ東遺跡とは

若宮ノ東遺跡は南国市篠原地区にあり、「弥生時代から近現代」に至る様々な遺構・遺物が確認されています。中でも「弥生時代後期から古墳時代初期」と、「古代(飛鳥時代から平安時代)」の2つの時期を中心に繁栄していました。

調査の成果

◎古代の役所の高床式倉庫群を確認
古代の総柱建物跡を4棟発見しました(①~④)。規模はいずれもおおむね50m以上の長方形に揃っていて、これまでに見つかった4棟

(⑤~⑧)と合わせて8棟の建物が同時期に建てられていたことがわかりました。これらの建物跡は2~3棟が規模と軸方向を東西・南北にそれぞれ揃え、東へ12度振った香長条理の地割(条里制と呼ばれる耕作地を農民に分配するために造られた碁盤の目状になっている農地の区画)に沿って建てられています。このような建物は当時一般集落では見られないため、その統一された規模・規格性から「各郡に置かれた役所の高床式倉庫群(郡衙の正倉群)」であることが分かり、県内では初確認となりました。

〈郡衙の正倉ってなんだろっ?〉

正倉とは、古代の役所や寺院に伴って見つかると「高床式の倉庫」です。郡の役所(郡衙)の正倉の中には、律令制の租税制度で定められた地方の財源である「租(穀物)」が納められ、倉庫の中がいっぱいになると次の倉庫が建てられていきました。



正倉柱穴掘削作業風景

◎弥生時代から古墳時代初期の集落規模がさらに広がる

弥生時代後期から古墳時代初期の縦穴建物跡が6棟見つかり、その周辺では壺や甕(かめ)・鉢・高杯(たかつき)などの土器片が大量に出土した「溝状遺構」と土器棺3基が見つかりました。今回確認できた縦穴建物跡は、これまでに見つかった範囲よりもさらに北側の電車通り沿いで確認できたことから、舟入川沿いまで集落が広がっている可能性が考えられます。遺跡内の縦穴建物跡は200棟以上、東西が約490m、南北が約230mの範囲に広がっており、県内でも有数の大規模集落跡となりました。



土器棺(土器に納めて埋葬した墓)

◎中世の遺構

土坑墓(地面を掘って作られた墓穴)1基から土師質(はじしつ)土器が出土しました。また、土坑墓以外にも、貿易によ

てもたらされた陶磁器(青磁碗)、土師質土器の碗・皿、瓦質土器の羽釜が出土しています。

◎近世の遺構

土坑墓を7基確認し、すべて長方形に掘られていて、遺構の底から六文銭(三途の川の渡し賃)や土師質土器の皿・お猪口・煙管、鉄釘が多数見つかりました。



出土した遺物

まとめ

今回の調査で見つかった正倉群は他県ではあまり見られない特徴を持っていました。その特徴とは、建て替えの痕跡が見られないことから一時期しか機能していなかったと

おわりに

調査にあたっては、地権者の方をはじめ、地域住民の皆様にご多大なるご支援・ご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。今後とも文化財調査へのご理解・ご協力をお願いいたします。なお、今回紹介した現地説明会資料は、文化財係(南国市立田405)・市役所3階生涯学習課、市のホームページからも入手できます。

現地説明会

2月27日に、調査成果の現地説明会を開催し、約130名の方が参加されました。



お知らせ

★南国市遺跡詳細分布調査図(A1版)が新しくなりました

令和2年度までに発見された遺跡が加わり、南国市内の遺跡数は302遺跡になりました。遺跡の範囲内での開発工事には、文化財保護法に基づき「埋蔵文化財発掘の届出」の提出が義務付けられ、工事着手の60日前までに届け出る必要があります。遺跡分布図は文化財係・生涯学習課で無料配布していますので、工事計画の際には確認をお願いします。

★南国市職員募集

文化財保護行政にご興味のある方は、次ページの行政(II)をご確認ください。

■問い合わせ/生涯学習課文化財係

0802・6062